

The Daily Reckoning
2023 年 2 月 14 日

ウクライナの恐ろしい終盤戦

<https://dailyreckoning.com/the-horrifying-endgame-in-ukraine/>

The Horrifying Endgame in Ukraine - The Daily Reckoning

By ジェームズ・リカード

昨日号では、今日の地政学的状況で最大かつ最も複雑なトピックである中国を取り上げた。しかし、今日は、今日の地政学的状況において、きわめて憂慮すべきトピックについて述べることにする。それは、ウクライナ戦争とそのエスカレーションの危険性である。

私は、米国や英国の新聞やテレビが報じないウクライナ戦争の2つの側面について、広範囲にわたって書いてきた。

一つ目は、実際にはロシアが戦争に勝っているということだ。

ニューヨークタイムズ（国務省のチャンネル）やワシントンポスト（CIAのチャンネル）などの米国の報道機関は、ロシアの計画がいかにか失敗したか、彼らがか無能か、ウクライナ軍（AFU）がドンバスでロシア軍をどう押し返したか、米国のエイブラムス戦車、英国のチャレンジャー戦車、ドイツのレオパルド戦車などの NATO 兵器がまもなくロシアに対して逆転するだろうか、について延々と報じている。

これはすべてナンセンスだ。どれも真実ではない。

現実の確認

まず、夏の終わりに行われたウクライナ側の進攻は、ロシア側が兵力を温存するためにすぐに譲歩した、防衛力の弱い陣地に対するものだった。ロシア軍は貴重な人員と資材を失わないように、進んで土地を譲ったのだ。

ロシア軍はより防御力の高い場所に撤退し、それ以来、ウクライナの攻撃部隊をひどく痛めつけ続けている。ウクライナは無益で不用意な攻撃で、信じられないほど大量の人員と装備を浪費している。

信頼できる報告によると、ウクライナ軍の死傷者は50万人に迫り、維持できないほど増加している。一方、ロシア人犠牲者10万人という報告は、ほぼ間違いなくウクライナによる乱暴な誇張である。BBCはこの数字を検証しようと試みて、葬儀通知や公的記録などを広範囲に検索した結果、確認できたロシア人の死者は約2万人に過ぎなかった。

戦車を送り込め-結局は!

NATOが供与するとされる戦車についてはどうだろうか。戦車はまだ納入されておらず、数カ月、あるいはそれ以上かかるだろう。米国のM1エイブラムス戦車も、1年以上は到着しないかもしれない。

この戦車は特注品で、米国のM1が持つ特殊な装甲やその他の高度なシステムを備えていない。国防総省としては、戦車が破壊されたり、捕獲されたりしてロシアの手に渡ることを避けたいのだ。それに、どのみち送るのは31台だけだ。

NATOの戦車が到着しても、ロシアの大砲や対戦車兵器、精密ミサイルですぐに破壊される可能性が高い。いい戦車ではあるが、無敵というにはほど遠い。ロシアは何十年も前から、NATOの戦車を破壊するために特別に設計された強力な兵器を開発してきた。ロシアは特に心配はしていない。

それは置くとしても、戦車は空からの効果的な援護に依存しており、ウクライナにはそれが無い。戦場ではカモにされるだけだ。ウクライナに戦車を送るには、戦闘機を送って援護してもらわなければ意味がない。

戦場ではロシアが勝利している

一方、ロシア軍はバフムト市をほぼ包囲した。バフムトは交通と物流の要衝で、いくつかの重要な道路と鉄道が通っている。おそらく数週間以内にロシア軍に陥落させられるだろう。

西側メディアは、バフムトはそれほど重要ではないと主張しているが、ここを失うことはウクライナにとって大きな打撃となる。ウクライナの全長800マイルの防衛線はおそらく崩壊し始めるだろうし、彼らは反撃するための強力な要塞を持ち合わせてはいない。ウクライナ軍は勇敢で有能な兵士ではあるが、疲労困憊しており、物資も不足している。

その上、ロシアは大量の人員、戦車、装甲兵員輸送車、大砲、ヘリコプター、ドローン、固定翼機による壊滅的な攻勢を準備している可能性が高い。

このロシア軍は、1年前にウクライナに侵攻した軍とは違う。訓練も指導も装備もはるかに優れている。昨年2月の最初の侵攻で犯した過ちから学んだのだ。ウクライナは、彼らがその過ちを繰り返すと期待すべきではない。

このことは、私がウクライナでのロシアの勝利を応援していることを意味するのではない。ただ現地の事実を観察し、それを整理して客観的な分析をしているだけだ。

その結果として、私はロシアが軍事的に勝利すると考えている。欧米の軍事支援は戦闘を長引かせるかもしれないが、最終的な結果には影響を与えないだろう。不可避の事態を遅らせ、より多くの人々が不必要に殺されるだけだ。

より大きなリスク

この戦争の第二の側面は、メディアで報道されていない、あるいは少なくとも軽視されている、核戦争のリスクの高まりである。

このリスクは、両陣営がエスカレートするたびに高まっている。米国は、長距離砲、パトリオット対ミサイル砲、情報、監視、そして今回の戦車を供給することで、無謀なエスカレーションを主導している。ロシアは各段階に対応している。

両者が核のレベルに到達するまでにはいくつもの段階があるが、どちらも一歩も退く気はないようだ。

ところで、ロシアはウクライナに武器を供給している NATO 諸国を攻撃するあらゆる法的権利を有している。紛争当事国に武器を供給することで、彼らは中立性を放棄し、事実上、戦闘員になっているのだ。ロシアは、NATO を直接戦いに巻き込みたくないのに、これをやっていない。しかし、法的には可能である。

くれ、くれ、くれ

米国、英国、その他の NATO 諸国に対して、ロシア軍と戦うための高度な武器を求めるウクライナの要求には限りがない。西側諸国は、まずウクライナに現金、情報、ジャベリン・ミサイルなどの対戦車兵器を供給した。すぐに長距離砲、無人偵察機、そしてさらに多くの現金を供給するようになった。

ロシアの前進が続く中、ゼレンスキーは、飛来するロシアのミサイルを破壊できるパトリオット対ミサイル砲を要求し、手に入れた。米国の大砲はロシ

アのクリミアに向けられた。いくつかのドローンは、核兵器が近くにある敏感な空軍基地でロシア国内を攻撃した。

次の兵器の要求は、米国、英国、ドイツ、ポーランドが供給中の先進的な戦車に関わるものだった。驚くには値しないが、最新の動きとして、ウクライナは今、世界で最も先進的な航空機の一つである F16 戦闘機を米国に要求している。

しかし、ロシアは世界で最も高度な防空システムを持っており、F-16 を大量に撃墜する能力が非常に高いのだ。

バイデンはこれまでゼレンスキーの要求を拒んできたが、以前は否定していた戦車の供与を、最終的に譲歩して認めた。飛行機についても、おそらく同じことが起こるだろう。しかし、それでもロシアとの戦局を変えることはできないだろう。

これらの先進的なシステムが役立たないことが分かったら、ウクライナは次に何を要求するだろう。ロシアは米国と同じように素早く致命的なエスカレーションをすることができる。

このシナリオ全体は、核戦争またはウクライナの完全な崩壊に向けた長いゆっくりとした行進である。

このような事態に備える人は本当にいるのだろうか？

アメリカは武器提供をやめないだろう。ジョー・バイデンは面目を失うことを恐れ、ビクトリア・ヌーランドなど側近のアドバイザーたちはロシアに対して分別のない憎しみを抱く、完全な戦争屋だからだ。

いまや、自暴自棄から生じる新たな危険が加わった。それは、米国自身がこの戦争で最大の敗者になるかもしれないという事実である。

ロシアの大攻勢でウクライナが消滅すれば、米国はますます絶望的になるだろう。ウクライナ防衛に多額の資金と物資を注ぎ、そして道徳的な重きを置いてきた米国の信用が危うくなっている。

バイデン政権はウクライナ戦争を、米国と NATO の存立危機事態に根本的に変えてしまったが、そうすべきではなかった。ウクライナは決して米国の死活的な利益ではなかった。しかし、ロシアにとってこの戦争は存在をかけたものであり、あきらめることはないだろう。

米国は諦めて、ロシアの勝利を認めるつもりなのだろうか。このような壮大な失敗に直面すれば、NATOは本当に崩壊する可能性がある。だから、米国はおそらく倍返しにでることになるだろう。

自暴自棄になったバイデンは、ロシアによる完全な乗っ取りに対する緩衝材としてウクライナ西部への軍の派遣を命じるかもしれない。それがうまくいきそうもないことは想像がつくだろう。そのような状況になれば、現在の代理戦争ではなく、米口の直接戦争に急速に発展するかもしれない。

アメリカ国民、特に投資家は、このような事態に何の覚悟もできていない。しなければならぬ。その可能性はますます高まっている。(了)

.....

筆者のジェームズ・G・リッカーズは、投資家向けの情報誌。アメリカの弁護士、経済学者、投資銀行家であり、ウォール街の資本市場で40年の経験を持つ。機関投資家、政府機関などの顧客を持つ。米有力紙やテレビに頻繁にゲスト出演。米情報機関やペンタゴンの国防長官室で資本市場に関するアドバイザーとして貢献している。